

https://prowriters.jp/grammar/auxiliary_verb

わかりやすい文章を書くための国語文法 助動詞

助動詞とは

助動詞(じょどうし)の活用、一覧、用法、覚え方について解説

国語での助動詞とは何か、活用表をはじめ、助動詞の種類や一覧、意味について例文を交えて解説します。助動詞がわからないという方のために、助動詞の覚え方や見分け方についても紹介します。基本的な文法である「れる」「られる」など間違えやすい助動詞についても紹介します。



pro writers 編集部

最終更新日 : 2020 年 11 月 05 日

助動詞とは

助動詞(じょどうし)の活用、一覧、用法、覚え方について解説

国語での助動詞とは何か、活用表をはじめ、助動詞の種類や一覧、意味について例文を交えて解説します。助動詞がわからないという方のために、助動詞の覚え方や見分け方についても紹介します。基本的な文法である「れる」「られる」など間違えやすい助動詞についても紹

介します。

参考文献：文部科学省中学校学習指導要領など（末尾に記載）

助動詞は用言や体言に意味をそえる付属語です。助動詞には活用があり、「れる」「られる」「らしい」などが助動詞の一例です。非常に多くの意味を持つ日本語の助動詞は覚えにくいと言われています。この記事では、助動詞の特徴や用法、助詞との見分け方についてわかりやすく解説します。

close

この記事の目次

- [助動詞とは](#)
- [助動詞の活用とは](#)
- [助動詞の例文](#)
- [助動詞の種類・一覧](#)
- [助動詞「れる」「られる」の用法・使い方](#)
- [助動詞「う」「よう」の用法・使い方](#)
- [助動詞「まい」の用法・使い方](#)
- [助動詞「ます」の用法・使い方](#)
- [助動詞「そうだ」の用法・使い方](#)
- [助動詞「せる」「させる」の用法・使い方](#)
- [助動詞「ない」「ぬ\(ん\)」の用法・使い方](#)
- [助動詞「た」の用法・使い方](#)
- [まとめ](#)

助動詞とは

助動詞とは、用言・体言などに付属して**意味をそえる働きがある**語で、大きな述語のまとまりをつくる言葉です。**付属語で活用がある**という特徴があります。たとえば「走ります」の「～ます」が助動詞です。

「れる」「られる」「せる」「させる」「ない」「そうだ」「らしい」「です」などが代表的な助動詞です。いずれも付属語のため、一語では意味は通じず、自立語である用言・体言のあとにくっつくことで役割を果たします。

助動詞の活用とは

助動詞は、**活用がある語**です。活用（かつよう）とは、**語尾の形が変わること**です。活用がない助詞とは違って語尾の形が変化します。

「本（名詞）」や「すっかり（副詞）」などは語尾が変化することはありませんが、助動詞は語尾が色々な形に変わります。

たとえば、助動詞「させる」の語尾を変化させると以下ようになります。

助動詞の活用

未然形：させない

連用形：させた

終止形：させる

連体形：させるとき

仮定形：させれば

仮定形：させろ・させよ

助動詞の活用形には、未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形・命令形の6種類があります。以下のように、未然形は「～う」に連なる形、連用形は「～た」に連なる形のように、

後ろに続く語が異なります。

助動詞の活用の形

未然形：～ないに連なる形（させない）

連用形：～た～ますに連なる形（させた）

終止形：言い切る形（させる）

連体形：～とき（させるとき）

假定形：～ばに連なる形（させれば）

命令形：命令する形（させろ、させよ）

このように、助動詞は活用があるので語尾の形が変わっていることがあります。

助動詞の例文

次に、助動詞の例文を紹介します。

- よく見えない
- 誰でも受けられる
- 田中くんに読ませる

「ない（打ち消し）」「られる（可能）」「せる（使役）」の助動詞が、前の語に付属して意味をつけ加えています。

助動詞の種類・一覧

日本語の助動詞の種類は、意味で分類すると「受け身・可能・自発・尊敬・使役・丁寧・希望・打ち消し・断定・過去・完了・推量・意思・たとえ・例示・推定・伝聞・様態」などにわけることができます。

助動詞は、非常に多くの意味を持つという特徴があります。

助動詞の種類(意味による分類)

多くの意味を持つ助動詞ですが、助動詞を意味によって分けると、以下のような表になります。

助動詞の意味による分類表

分類	助動詞
受け身・可能・自発・尊敬	れる・られる
使役	せる・させる
打ち消し	ない・ぬ
推量・意思	う・よう
打ち消しの推量・打ち消しの意思	まい
希望	たい・たがる
丁寧	ます
過去・完了・存続・確認	た・だ
様態・伝聞	そうだ・そうです
たとえ・推定・例示	ようだ・ようです

分類	助動詞
推定	らしい
断定	だ
丁寧な断定	です

助動詞「れる」「られる」の用法・使い方

助動詞の「れる」「られる」は、文脈によって、**受け身・尊敬・自発・可能**の4つの意味の場合があります。

1. 受け身の意味

受け身は、他から動作を受けることを意味します。前に「～に」がくることが多くあります。

- 人に信頼**される**。(信頼する+れる)
- 育て**られる**。(育てる+られる)

2. 尊敬の意味

尊敬は、相手の動作を敬うことを意味します。

- 先生が話**される**。(話す+れる)
- お客様が来**られる**。(来る+られる)

3. 自発の意味

自発は、意識しなくても自然とそうなることを意味します。特に、思うや感じるという気持ち
をあらわす言葉の時に自発の意味になるケースが多くあります。

- 思い出**される**。(思い出す+れる)
- 遠くにいても君の優しさが感じ**られる**。(感じる+られる)

4. 可能の意味

可能は、できることを意味します。(英語では can にあたります。)可能の意味の時には「～できる」に置き換えることができます。

- 簡単に遠くまで投げられる。(投げる+られる)
- 苦手なものも食べられる。(食べる+られる)

「れる」「られる」の活用表

助動詞「れる」「られる」は次のように活用します。

活用の種類	れる	られる
未然形	れ	られ
連用形	れ	られ
終止形	れる	られる
連体形	れる	られる
仮定形	れれ	られれ
命令形	れろ、れよ	られろ、られよ

助動詞「う」「よう」の用法・使い方

助動詞の「う」「よう」は、文脈によって、**推量・意思・勧誘**の3つの意味の場合があります。

1. 推量の意味

推量は、話し手が「～だろう」と予想・想像していることを意味します。主語が三人称（もの・ことなど私でもあなたでもない時）の時には推量の意味で用いられることが多くなります。

- さぞ辛かろう。(つらい+う)
- そろそろ雨が止んでもよかろう。(よい+う)

例文では、辛いだろう、雨が止んでもよいだろう、と話し手が想像している様子をあらわしています。

2. 意志の意味

意志は、「～するぞ」「～するつもりだ」という強い気持ちを意味します。主語が一人称（私・僕）の時には意志の意味で用いられることが多くなります。

- 明日は休もう。(休む+う)
- 本をたくさん読もうと決心した。(読む+う)

例文では、明日は休むぞ、本をたくさん読むぞという様子をあらわしています。

3. 勧誘の意味

勧誘は「一緒に～しよう」という気持ちを意味しています。主語が二人称(君・あなた)の時には勧誘の意味で用いられることが多くなります。

- 一緒に歌おう。(歌う+う)
- みんなで絵を描こう。(書く+う)

例文では、一緒に歌おう、一緒に描こうという様子をあらわしています。

「う」「よう」の活用表

助動詞「う」「よう」の活用は以下ようになります

活用の種類	う	よう
未然形	-	-
連用形	-	-
終止形	う	よう
連体形	(う)	(よう)
仮定形	-	-
命令形	-	-

助動詞「まい」の用法・使い方

助動詞の「まい」は、文脈によって、**否定の推量・否定の意志**の2つの意味の場合があります。

1. 否定の推量の意味

否定の推量は、「～しないだろう」と予想・想像していることを意味します。主語が三人称の時には否定の推量で用いられることが多くなります。

- 週末は雨が降る**まい**。(降る+まい)
- 彼の怪我は大したことがある**まい**。(ある+まい)

例文では、降らないだろう、大したことがないだろうと予想している様子をあらわしています。

2. 否定の意志

否定の意志は、「～しないぞ」という否定の意志を意味しています。主語が一人称(私)の時
には否定の意志で用いられることが多くなります。また、「～するつもりはない」に置き換
えられる場合は否定の意志の意味で使われている場合が多くなります。

- 明日は休むまい。(休む+まい)
- あんな過ちは二度と繰り返すまい。(繰り返す+まい)

例文では、休まないぞ、繰り返さないぞという強い気持ちをあらわしています。

「まい」の活用表

助動詞「まい」の活用表は以下のようになります。

活用の種類	まい
未然形	-
連用形	-
終止形	まい
連体形	(まい)
仮定形	-
命令形	-

助動詞「ます」の用法・使い方

助動詞の「ます」は、**丁寧**の意味があります。

1. 丁寧の意味

丁寧を意味しています。

- これから出かけます。(出かける+ます)
- もっと早く家を出ようと思います。(思う+ます)

「ます」の活用表

助動詞「ます」は次のように活用します。

活用の種類	ます
未然形	ませ(ましょ)
連用形	まし
終止形	ます
連体形	ます
假定形	ますれ
命令形	ませ(まし)

助動詞「そうだ」の用法・使い方

助動詞の「そうだ」は、**推定・様態・伝聞**の意味があります。

1. 推定・様態の意味

「～という様子が見て取れる」という、自分で見て予想していることを意味しています。

- 雨が降り**そう**だ(降る+そうだ)
- このお菓子は甘**そう**だ。(甘い+そうだ)

例文では、自分で見て雨が降るとい様子が見て取れる、自分で見て甘い様子が見て取れる、という様子をあらわしています。

2. 伝聞の意味

「～と人から聞いた」「人が～と言っていた」ということを意味しています。前が終止形(言い切りの形)の語ついている「**そう**だ」は、伝聞の意味になります。

- 雨が降る**そう**だ。
- 長野県は日本で二番目にりんごの生産量が多い**そう**だ。

例文では、雨が降ると人が言っていた、長野県はりんごの生産量が日本で二番目に多いと人が言っていた、という様子をあらわしています。

「**そう**だ」の活用表

助動詞「**そう**だ」は次のように活用します。

活用の種類	そう だ
未然形	そう だろ
連用形	そう だっ、 そう で、 そう に
終止形	そう だ
連体形	そう な

活用の種類	そうだ
仮定形	そうな
命令形	そうなら

助動詞「せる」「させる」の用法・使い方

助動詞の「せる」「させる」は、**使役**の意味があります。

1. 使役の意味

「人に動作をやらせる」ということを意味しています。

- 夏休みは思う存分遊ば**せ**ましょう。(遊ぶ+せる)
- すぐに来**させ**れば間に合います。(来る+させる)

例文では、遊ぶことを人にやらせる、来ることを人にやらせることをあらわしています。

「せる」「させる」の活用表

助動詞「せる」「させる」は次のように活用します。

活用の種類	せる	させる
未然形	せ	させ
連用形	せ	させ
終止形	せる	させる
連体形	せる	させる

活用の種類	せる	させる
仮定形	せれ	させれ
命令形	せよ、せろ	させよ、させろ

助動詞「ない」「ぬ(ん)」の用法・使い方

助動詞の「ない」「ぬ(ん)」は、**打ち消し**の意味があります。

1. 打ち消しの意味

前の語を打ち消す意味で用いられます。動詞や助動詞の未然形の後ろについて意味を加えます。

- アメリカには行かないつもりだ。(行く+ない)
- 彼女は賛同していない様子だ。(賛同する+ない)

例文では、行くことはしない、賛同することはしない、という意味をあらわしています。

「ない」「ぬ(ん)」の活用表

助動詞「ない」「ぬ(ん)」は次のように活用します。

活用の種類	ない	ぬ(ん)
未然形	なかる	-
連用形	なかつ、なく	ず
終止形	ない	ぬ(ん)

活用の種類	ない	ぬ(ん)
連体形	ない	ぬ(ん)
仮定形	なけれ	ね
命令形	-	-

助動詞「たい」「たがる」の用法・使い方

助動詞の「たい」「たがる」は、**希望**の意味があります。

1. 希望の意味

前の語について希望を意味します。動詞と助動詞の連用形のうしろについて意味を加えます。

- ぜひ行きたい。(行く+たい)
- 明日には食べたい。(食べる+たい)

例文では、行くことを希望する、食べることを希望するという意味をあらわしています。

「たい」「たがる」の活用表

助動詞の「たい」「たがる」は次のように活用します。

活用の種類	たい	たがる
未然形	たかろ	たがら、たがろ
連用形	たかっ、たく	たがり、たがっ

活用の種類	たい	たがる
終止形	たい	たがる
連体形	たい	たがる
假定形	たけれ	たがれ
命令形	-	-

助動詞「た」の用法・使い方

助動詞の「た」は、**過去・完了・存続・確認(想起)**の意味があります。

1. 過去の意味

前の語について過去を意味します。

- 私もそこに行った。(行く+た)
- 昨日食べた。(食べる+た)

2. 完了の意味

前の語について完了したことを意味します。

- 仕事が今終わったところだ。(終わる+た)
- 結婚式の準備がようやく済んだ。(済む+た)

例文では、仕事が完了した、準備が完了したという意味をあらわしています。

3. 存続の意味

前の語について存続していることを意味します。存続の意味の場合は「～してある」と言い換えられます。

- 高くそびえた塀が、気持ちを暗くしている。(そびえる+た)

例文では、高くそびえている塀という存続の意味をあらわしています。

4. 確認（想起）の意味

前の語について確認していることを意味します。その事実をそうだったと確認し、思い出している時に用います。

- そうだ今日は、同僚の誕生日だった。(誕生日だ+た)
- 確か、明日は休暇の予定だったね。(予定だ+た)

例文では、同僚の誕生日だ、休暇の予定だということを思い出している意味をあらわしています。

「た」の活用表

助動詞「た」は次のように活用します。

活用の種類	た
未然形	たろ(だろ)
連用形	-
終止形	た(だ)
連体形	た(だ)
假定形	たら(だら)

活用の種類	た
命令形	-

まとめ

助動詞について解説しました。ポイントは3つです。

助動詞とは

- 文に意味を付け加える
- 活用する
- 同じ語でも文脈によって意味が変わる

品詞を1つ1つ覚えていくのは暗記しないとイケないこともあり、骨が折れるかと思えます。しかし、正しい日本語を覚えることで、相手に誤解を与えることが少なくなり、言いたいことがスムーズ伝わります。間違った文章を指摘することもできるようになるので、少しずつ覚えていきましょう。

本解説は、文部科学省（平成29年度告示）中学校学習指導要領に準拠した中学校国語教科書をはじめとする国語文法をわかりやすい観点で解説することを目的に作成されております。参考文献の詳細はページ末尾をご覧ください。

pro writers 編集部

<https://prowriters.jp/services/company>

日本語文法の基礎を分かりやすく丁寧に解説します。文法に関する知識は文章力や読解力の入り口です。専門書の内容をもとに、これだけは知っておきたい国語のベーシックな知識を集め、より理解しやすい言葉でご紹介します。多くの方に読まれ続けているこの『日本語

文法』をレベルアップや文法の振り返りにお役立てください。

日本語文法の品詞一覧

基本

- [文法まとめ](#)
- [ことばの単位](#)
- [文の構造](#)

構造

- [主語](#)
- [述語](#)
- [修飾語](#)
- [接続語](#)
- [独立語](#)

品詞

- [名詞](#)
- [動詞](#)
- [形容詞](#)
- [形容動詞](#)
- [助詞](#)
- [助動詞](#)
- [副詞](#)
- [連体詞](#)
- [接続詞](#)

- [感動詞](#)

敬語

- [敬語まとめ](#)
- [尊敬語](#)
- [謙讓語](#)
- [丁寧語](#)

表現

- [受け身](#)

参考文献

- 『[国語 1](#)』『[国語 2](#)』『[国語 3](#)』 光村図書（中学校国語教科書）
- 『[中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説](#)』 文部科学省
- 『[国語教師が知っておきたい日本語文法](#)』 山田敏弘 くろしお出版
- 『[初級を教える人のための日本語文法ハンドブック](#)』 [監修] 松岡弘 [著] 庵功雄
高梨信乃 中西久実子 山田敏弘 [出版] スリーエーネットワーク
- 『[中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック](#)』 [監修] 白川博之 [著] 庵功雄
高梨信乃 中西久実子 山田敏弘 [出版] スリーエーネットワーク
- 『[助詞・助動詞の辞典](#)』 森田良行 東京堂出版
- 『[日本人のための日本語文法入門](#)』 原沢伊都夫 講談社現代新書
- 『[基礎日本語文法 一改訂版一](#)』 益岡隆志 田窪行則 くろしお出版